

塩竈市立病院事業会計

I 予算の執行状況

1 収益的収入及び支出

1) 収入

(単位:円、%)

区 分	予 算 現 額	うち法第24条第3項の規定による支出額に係る財源充当額	決 算 額	予 算 額 に 比 べ 決 算 額 の 増 減	執 行 率
病院事業収益	3,132,771,000	0	3,115,341,589	△ 17,429,411	99.44
医 業 収 益	2,538,138,000	0	2,520,581,511	△ 17,556,489	99.30
医 業 外 収 益	331,122,000	0	336,202,000	5,080,000	101.53
特 別 利 益	263,511,000	0	258,558,078	△ 4,952,922	98.12

(注) 決算額は消費税を含んだ金額である。

2) 支出

(単位:円、%)

区 分	予 算 現 額	決 算 額	翌 年 越 度 額	不 用 額	執 行 率
病院事業費用	2,997,701,000	2,971,423,545	0	26,277,455	99.12
医 業 費 用	2,950,260,000	2,928,002,865	0	22,257,135	99.24
医 業 外 費 用	44,441,000	43,068,447	0	1,372,553	96.91
特 別 損 失	3,000,000	352,233	0	2,647,767	11.74

(注) 決算額は消費税を含んだ金額である。

① 収益的収入

予算現額3,132,771,000円に対し、決算額3,115,341,589円で、執行率99.44%となっている。

② 収益的支出

予算現額 2,997,701,000 円に対し、決算額 2,971,423,545 円で、執行率 99.12%となり、26,277,455 円の不用額が生じ決算されている。

- [主な不用額]
- ・経 費 13,827 千円 (委託料 5,609 千円、賃借料 5,191 千円)
 - ・材 料 費 5,350 千円 (給食材料費 3,096 千円、薬品費 2,143 千円)
 - ・研究研修費 2,689 千円 (旅費 1,652 千円、研究雑費 631 千円)
 - ・過年度損益修正損 2,648 千円

2 資本的収入及び支出

1) 収入

(単位:円、%)

区 分	予 算 現 額	うち法第26条の繰越額 に係る財源充当額	決 算 額	予 算 額 に 比 べ 決 算 額 の 増 減	執 行 率
資本的収入	109,680,000	0	105,494,327	△ 4,185,673	96.18
他会計出資金	49,380,000	0	49,194,327	△185,673	99.62
他会計補助金	30,000,000	0	30,000,000	0	100.00
企 業 債	30,300,000	0	25,300,000	△5,000,000	83.49
寄 附 金	0	0	1,000,000	1,000,000	-

(注) 決算額は消費税を含んだ金額である。

2) 支出

(単位:円、%)

区 分	予 算 現 額	うち法第26条の規定 による繰越額	決 算 額	翌 年 度 繰 越 額	不 用 額	執 行 率
資本的支出	330,922,000	0	324,070,091	0	6,851,909	97.92
建設改良費	37,657,000	0	31,168,991	0	6,488,009	82.77
企業債償還金	256,765,000	0	256,401,100	0	363,900	99.85
長期借入金 償 還 金	36,500,000	0	36,500,000	0	0	100.00

(注) 決算額は消費税を含んだ金額である。

① 資本的収入

予算現額 109,680,000 円に対し、決算額 105,494,327 円で、執行率 96.18%となっている。

② 資本的支出

予算現額 330,922,000 円に対し、決算額 324,070,091 円で、執行率 97.92%となり、不用額は 6,851,909 円となっている。

建設改良費は、施設購入費として 29,919,431 円で、その内訳はレーザー光凝固装置購入（契約額 7,884,000 円）、人工呼吸器購入（契約額 4,860,000 円）等、施設改良費として 1,249,560 円で、その内訳は外来棟 1 階トイレ改良工事（契約額 1,249,560 円）である。

なお、資本的収入額が資本的支出額に対し不足する額 218,575,764 円は、当年度消費税及び地方消費税資本的収支調整額 1,963,920 円、当年度損益勘定留保資金 216,611,844 円をもって補っている。

II 経営成績

平成23年度から平成27年度までの経営成績は、次表のとおりである。

消費税を除いた本年度の収益的収支は、142,032,170円の純利益となって決算されている。

なお、以下の計数については、消費税を除いたものである。

1 総収益と総費用

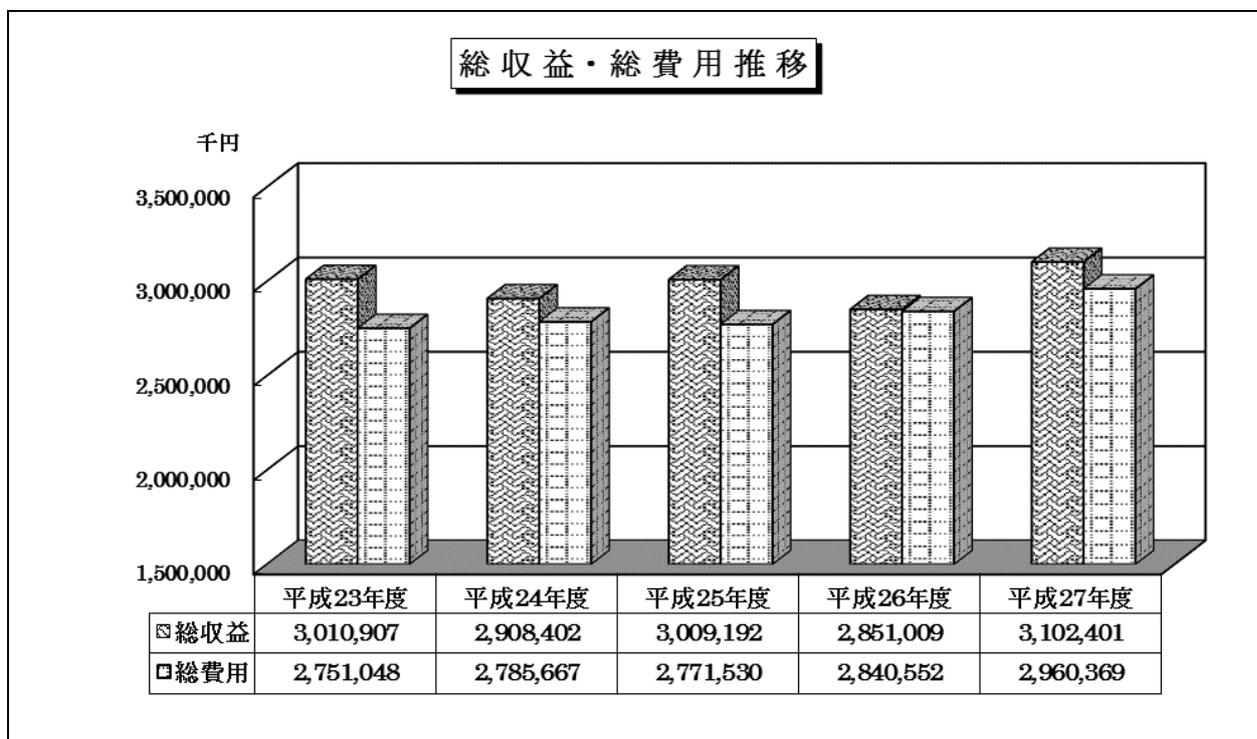
総収益・総費用すう勢比率表

(単位:円、%)

区分 年度	総 収 益		総 費 用		収支差引額 (A) - (B)	収支比率 (A) / (B)
	金 額 (A)	すう勢比率	金 額 (B)	すう勢比率		
平成23年度	3,010,906,696	100.0	2,751,048,499	100.0	259,858,197	109.4
平成24年度	2,908,401,998	96.6	2,785,666,518	101.3	122,735,480	104.4
平成25年度	3,009,192,447	99.9	2,771,529,913	100.7	237,662,534	108.6
平成26年度	2,851,008,731	94.7	2,840,552,129	103.3	10,456,602	100.4
平成27年度	3,102,400,936	103.0	2,960,368,766	107.6	142,032,170	104.8

(注) すう勢比率は23年度を基準年度とする。

また、平成23年度以降の総収益、総費用の推移を図で表すと以下のとおりである。



本年度の総収支の状況は、平成23年度を比率100としたすう勢比率でみると、総収益で前年度と比べ8.3ポイント上回った103.0%となり、総費用も4.3ポイント上回った107.6%となっている。

また、収支比率は前年度に比べ4.4ポイント上回った104.8%となり、収支差引では前年度と比較し純利益で131,575,568円増の142,032,170円となった。

2 収 益

次に収益の内容を前年度と比較してみると次表のとおりである。

収 益 比 較 表

(単位:円、%)

年 度 区 分		平 成 27 年 度		平 成 26 年 度		対 前 年 度 比 較	
		金 額	構 成 比	金 額	構 成 比	増 減 額	増 減 率
医 業 収 益	入 院 収 益	1,512,969,803	48.8	1,449,392,623	50.8	63,577,180	4.4
	外 来 収 益	755,378,422	24.3	646,578,856	22.7	108,799,566	16.8
	そ の 他 医 業 収 益	240,662,877	7.8	244,551,175	8.6	△3,888,298	△1.6
	計	2,509,011,102	80.9	2,340,522,654	82.1	168,488,448	7.2
医 業 外 収 益	他 会 計 負 担 金	123,502,916	4.0	128,558,000	4.5	△5,055,084	△3.9
	他 会 計 補 助 金	141,585,451	4.6	59,731,965	2.1	81,853,486	137.0
	患 者 外 給 食 収 益	591,540	0.0	674,545	0.0	△83,005	△12.3
	そ の 他 医 業 外 収 益	16,902,934	0.5	16,419,179	0.6	483,755	2.9
	県 補 助 金	17,736,247	0.6	18,861,014	0.7	△1,124,767	△6.0
	長 期 前 受 金 戻 入	34,512,668	1.1	28,211,739	1.0	6,300,929	22.3
	計	334,831,756	10.8	252,456,442	8.9	82,375,314	32.6
特 別 利 益	過 年 度 損 益 修 正 益	47,529	0.0	1,305,600	0.0	△1,258,071	△96.4
	他 会 計 補 助 金	258,510,549	8.3	256,724,035	9.0	1,786,514	0.7
	計	258,558,078	8.3	258,029,635	9.1	528,443	0.2
合 計		3,102,400,936	100.0	2,851,008,731	100.0	251,392,205	8.8

収益の内容を前年度と比較してみると、収益合計で251,392,205円(8.8%)の増収となっている。これは、医業外収益の他会計負担金5,055,084円(3.9%)等で減収となったが、外来収益108,799,566円(16.8%)、医業外収益の他会計補助金81,853,486円(137.0%)等が増収となったためである。

入院及び外来患者の年延患者数の推移をみると次表のとおりである。

年 延 患 者 数 の 推 移

(単位:人、%)

区 分	平成27年度	平成26年度	対前年度比率	平成25年度	平成24年度	平成23年度
年延入院患者数	51,005	50,687	100.6	57,727	54,756	58,339
年延外来患者数	60,121	62,037	96.9	66,164	68,732	74,910
合 計	111,126	112,724	98.6	123,891	123,488	133,249

本年度の年延入院患者数は51,005人、一日平均139.4人で、前年度より延患者数318人、一日平均0.5人の増加。年延外来患者数は60,121人、一日平均247.4人で前年度より延患者数1,916人、一日平均6.9人の減少となっている。

次に患者一人一日当りの診療収入など本市と年鑑指標をみると次表のとおりである。

区 分	平成27年度	平成26年度	対前年度比較増減	平成26年度年鑑指標
患者一人一日当り診療収入 (円)	20,412	18,594	1,818	22,909
〃 入院収入 (円)	29,663	28,595	1,068	43,723
〃 外来収入 (円)	12,564	10,422	2,142	11,338
外 来 入 院 患 者 比 率 (%)	117.9	122.4	△4.5	179.9
病 床 利 用 率 (%)	86.6	86.3	0.3	74.1

(注) 年鑑指標とは「地方公営企業年鑑」病院・経営主体・市の平成26年度全国平均値である。

本年度の患者一人一日当りの入院と外来の診療収入を前年度と比較すると、入院収入は29,663円で1,068円(3.7%)、外来収入でも12,564円で2,142円(20.6%)上回っている。また、年鑑指標と比較すると、入院収入で14,060円(32.2%)下回っているが、外来収入で1,226円(10.8%)上回っている。

外来入院患者比率(年延外来患者数÷年延入院患者数)をみると、前年度に比べ4.5ポイント下回っている。これは外来患者の減少によるものである。(審査資料別表2参照)

3 費用

費用比較表

(単位:円、%)

年度 区分	平成27年度		平成26年度		対前年度比較	
	金額	構成比	金額	構成比	増減額	増減率
医業費用	2,884,840,306	97.4	2,683,178,099	94.5	201,662,207	7.5
医業外費用	75,176,227	2.5	95,232,900	3.4	△20,056,673	△21.1
特別損失	352,233	0.0	62,141,130	2.2	△61,788,897	△99.4
合計	2,960,368,766	100.0	2,840,552,129	100.0	119,816,637	4.2

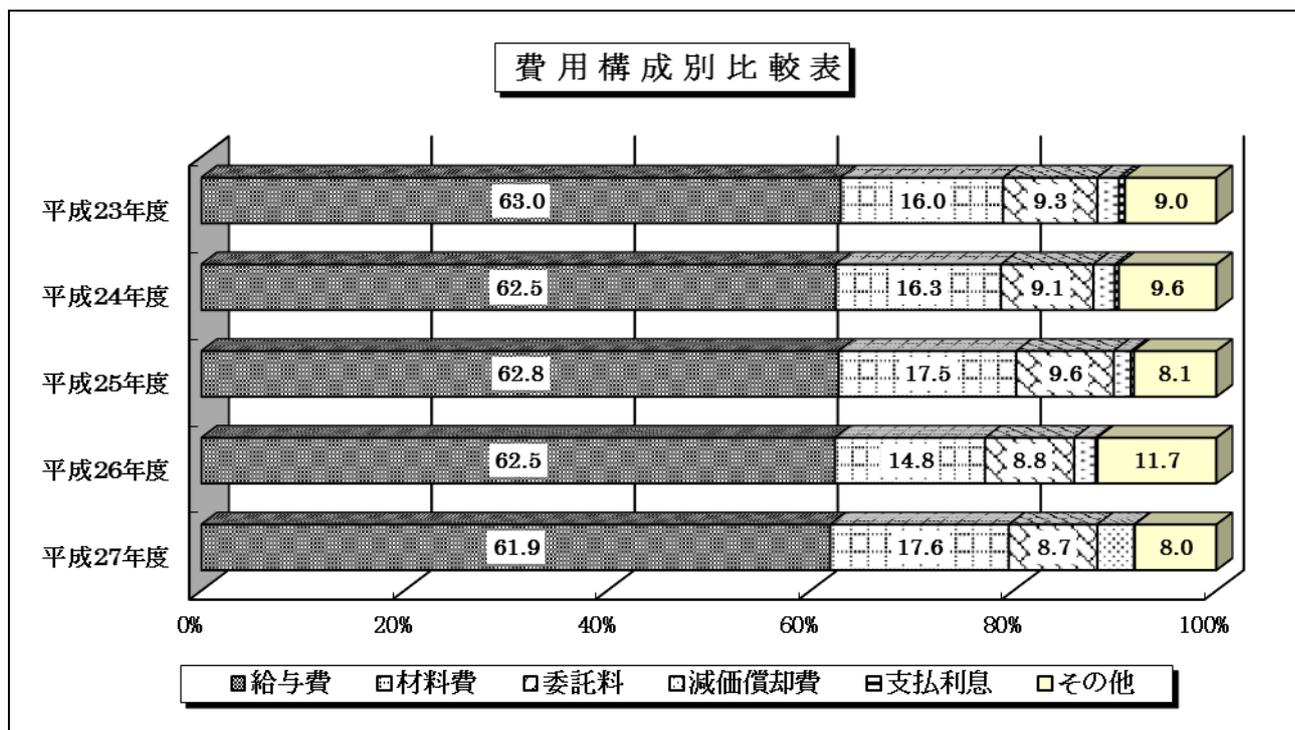
費用を前年度と比較してみると、特別損失で 61,788,897 円 (99.4%)、医業外費用で 20,056,673 円 (21.1%)それぞれ減少したが、医業費用で 201,662,207 円 (7.5%)増加したことにより、費用合計で 119,816,637 円 (4.2%)増加している。また、特別損失の減少については、平成 26 年度において、会計制度改正に伴い職員手当等の費用を特別損失に計上したためである。(審査資料別表 3・4 参照)

これを構成別で比較してみると次表のとおりである。

費用構成別比較表

(単位:円、%)

年度 区分	平成27年度		平成26年度		対前年度比較		
	金額	構成比	金額	構成比	増減額	増減率	
給与費	1,833,319,879	61.9	1,774,486,789	62.5	58,833,090	3.3	
材料費	521,914,024	17.6	419,320,618	14.8	102,593,406	24.5	
委託料	257,873,670	8.7	250,466,579	8.8	7,407,091	3.0	
減価償却費	107,926,184	3.6	60,263,129	2.1	47,663,055	79.1	
支払利息	3,462,901	0.1	4,860,172	0.2	△1,397,271	△28.7	
その他	賃借料	40,282,330	1.4	51,091,070	1.8	△10,808,740	△21.2
	光熱水費	55,438,968	1.9	62,551,712	2.2	△7,112,744	△11.4
	修繕費・ 工事費	12,305,427	0.4	13,171,658	0.5	△866,231	△6.6
	その他	127,845,383	4.3	204,340,402	7.2	△76,495,019	△37.4
	計	235,872,108	8.0	331,154,842	11.7	△95,282,734	△28.8
合計	2,960,368,766	100.0	2,840,552,129	100.0	119,816,637	4.2	



構成別で前年度より増加した主なものは、材料費で 102,593,406 円(24.5%)、給与費で 58,833,090 円(3.3%)等である。一方、減少した主なものは、その他(過年度損益修正損の手当等)で 76,495,019 円(37.4%)、賃借料で 10,808,740 円(21.2%)等である。

4 経営状況

病院事業の経済性を示す一つの指標として、総資本利益率を求めれば次表のとおりである。

区分	平成27年度	平成26年度	平成26年度 年鑑指標	算式
総資本利益率 (%)	△5.80	△9.95	0.91	$\frac{\text{当年度経常利益}}{\text{年平均総資本}} \times 100$
総資本回転率 (回)	1.25	1.26	0.55	$\frac{\text{医業収益}}{\text{年平均総資本}}$
医業収益利益率 (%)	△4.63	△7.92	1.64	$\frac{\text{当年度経常利益}}{\text{医業収益}} \times 100$

(注)・総資本＝負債資本合計

- ・年平均総資本＝(期首総資本＋期末総資本)÷2
- ・総資本利益率(経営業績、収益性を示し、比率の高いほど投下資本が効率的に運用されていることを表す)
- ・総資本回転率(高いほど収益をあげるため総資本を効率的に活用したことを表す)
- ・医業収益利益率(医業収益に占める経常利益の割合を示す)

総資本利益率は、平成26年度より4.15ポイント上回っている。これを総資本回転率と医業収益利益率とに分解してみると、総資本回転率で0.01ポイント下回ったが、医業収益利益率で3.29ポイント上回ったことに起因している。これは当年度経常利益が69,258,228円(37.3%)増加したことによるものである。

次に経営状態の良否を判断するため、収支比率を求めれば次表のとおりである。

区 分	平成27年度	平成26年度	平成26年度 年鑑指標	算 式
医業収支比率 (%)	86.97	87.23	93.10	$\frac{\text{医業収益}}{\text{医業費用}} \times 100$
経常収支比率 (%)	96.08	93.33	98.83	$\frac{\text{医業収益} + \text{医業外収益}}{\text{医業費用} + \text{医業外費用}} \times 100$
総収支比率 (%)	104.80	100.37	86.38	$\frac{\text{総収益}}{\text{総費用}} \times 100$

(注) 年鑑指標とは「地方公営企業年鑑」病院・経営主体・市の平成26年度全国平均値である。

比率はいずれも高いほど経営状態は良好であることを表す。

総収支比率（総体的経営活動の能率を示す）では、年鑑指標を18.42ポイント上回っている。これは、医業収支比率（業務活動の能率を示す）で6.13ポイント、経常収支比率（経常経営活動の能率を示す）で2.75ポイント下回っているが、特別利益で改革プランに基く繰入を行っていることによるものである。

Ⅲ 財政状態

平成27年度末の財政状態は、審査資料別表5に示すとおりである。

また、本年度の財務活動を明らかにするため、資金の移動状態を表示する資金運用表を作成すると次表のとおりである。

資 金 運 用 表

(単位:円)

使 途		源 泉	
項 目	金 額	項 目	金 額
構 築 物 の 取 得	1,157,000	受 贈 財 産 評 価 額	4,000,380
器 械 備 品 の 取 得	27,392,380	寄 附 金	1,000,000
企 業 債 (固 定 負 債)	33,918,992	そ の 他 資 本 剰 余 金	79,194,327
他 会 計 借 入 金 (固 定 負 債)	21,500,000	減 価 償 却 費	107,926,184
リ ー ス 債 務 (固 定 負 債)	4,695,809	車 両 運 搬 具 の 除 却 費	50,575
繰 延 収 益	34,512,668	当 年 度 純 利 益	142,032,170
正味運転資本の増加	211,026,787		
合 計	334,203,636	合 計	334,203,636

(注) 審査資料別表6参照

本年度の資金の流れは、資金運用表に示すとおり、源泉の合計は334,203,636円で、その主なものは減価償却費、当年度純利益等であった。一方、使途は器械備品の取得、企業債(固定負債)等の合計123,176,849円であったことから残金211,026,787円は正味運転資本の増加となって表れている。

この正味運転資本の増加をみるために、正味運転資本増減明細表を作成すると次表に示すとおりである。

正味運転資本増減明細表

(単位:円)

増		加		減		少	
項	目	金	額	項	目	金	額
未	収	金	の	増	加	43,888,704	
現金及び預金の減少				51,501,755			
企業債(流動負債)の減少				197,182,108			
貯蔵品の減少				10,000,470			
他会計借入金(流動負債)の減少				15,000,000			
一時借入金の増加				28,000,000			
未	払	金	の	減	少	49,133,080	
リース債務(流動負債)の増加				39,738			
				引当金の増加			1,908,925
				その他流動負債の増加			2,726,217
				正味運転資本の増加			211,026,787
合	計			305,203,892			
				合	計		305,203,892

正味運転資本の増加は、表に示すとおり企業債(流動負債)の減少、未払金の減少等である。

なお、年度末現在の不良債務額の推移は、次のとおりである。

(単位:円)

	平成27年度	平成26年度	平成26年度 (期首)	平成25年度	平成24年度
年度末不良債務額	65,146,538	265,115,766	199,035,038	△688,997	86,858,299
対前年度増減額	△199,969,228	66,080,728	112,176,739	△87,547,296	△422,428
不良債務比率(%)	2.60	11.33	7.95	—	3.59

$$\text{※不良債務比率(%)=} \frac{\text{不良債務額}}{\text{医業収益}} \times 100$$

次に、財政状態の良否を示す一つの指標として、財務比率を求めれば次表のとおりである。

財 務 比 率

(単位:%)

区	分	平成27年度	平成26年度	平成26年度 (期首)	平成26年度 年鑑指標	算	式	
流	動	比	率	79.93	62.65	66.91	195.37	$\frac{\text{流動資産}}{\text{流動負債}} \times 100$
自	己	資	本	45.44	33.94	31.71	30.11	$\frac{\text{資本金} + \text{剰余金} + \text{評価差額等} + \text{繰延収益}}{\text{負債資本合計}} \times 100$
固	定	資	産	111.88	132.56	132.77	85.30	$\frac{\text{固定資産}}{\text{資本金} + \text{剰余金} + \text{評価差額等} + \text{固定負債} + \text{繰延収益}} \times 100$

(注) ・流動比率(短期支払能力を示す) ・自己資本構成比率(経営の安全性を示す)

・固定資産対長期資本比率(固定資産の調達状態を示す)

平成27年度の決算を前年度と比較すると、流動比率で17.28ポイント、自己資本構成比率で11.50ポイント、固定資産対長期資本比率で20.68ポイントそれぞれ改善している。

IV 病院改革プラン数値目標との比較

塩竈市立病院改革プランの全体計画期間は、平成 21 年度から平成 27 年度までの 7 年間である。

財務に係る数値を中心にした平成 24 年度からの決算数値の推移と数値目標との比較は、次表に示すとおりである。

区 分		年 度		27年度	26年度	25年度	24年度
		決算数値	数値目標				
経常収支比率	(%)	決算数値		96.1	93.3	98.9	95.1
		数値目標		102.9	102.9	101.5	100.4
		差 額		△ 6.8	△ 9.6	△ 2.6	△ 5.3
医業収支比率	(%)	決算数値		87.0	87.2	92.3	89.2
		数値目標		95.7	95.6	95.5	94.7
		差 額		△ 8.7	△ 8.4	△ 3.2	△ 5.5
職員給与費対 医業収益比率	(%)	決算数値		54.0	59.4	51.6	54.4
		数値目標		55.8	55.7	56.3	56.2
		差 額		△ 1.8	3.7	△ 4.7	△ 1.8
病床利用率	(%)	決算数値		86.6	86.3	98.2	93.2
		数値目標		97.3	97.3	97.3	97.3
		差 額		△ 10.7	△ 11.0	0.9	△ 4.1
1日平均入院患者数	(人)	決算数値		139.4	138.9	158.2	150.0
		数値目標		156.7	156.7	156.7	156.7
		差 額		△ 17.3	△ 17.8	1.5	△ 6.7
1日平均外来患者数	(人)	決算数値		247.4	254.3	271.2	280.5
		数値目標		307.8	307.8	307.8	307.8
		差 額		△ 60.4	△ 53.5	△ 36.6	△ 27.3
入院患者1人1日当り 診療単価	(円)	決算数値		29,663	28,595	27,679	28,025
		数値目標		27,500	27,500	27,500	27,500
		差 額		2,163	1,095	179	525
外来患者1人1日当り 診療単価	(円)	決算数値		12,564	10,422	9,766	9,044
		数値目標		9,150	9,150	9,156	9,156
		差 額		3,414	1,272	610	△ 112
救急患者数	(件)	決算数値		1,044	1,112	1,109	1,192
		数値目標		1,000	1,000	1,000	1,000
		差 額		44	112	109	192
経常損益	(千円)	決算数値		△ 116,174	△ 185,432	△ 29,864	△ 136,690
		数値目標		77,051	74,919	39,217	9,742
		差 額		△ 193,225	△ 260,351	△ 69,081	△ 146,432
純利益	(千円)	決算数値		142,032	10,457	237,663	122,735
		数値目標		340,545	335,433	294,656	268,230
		差 額		△ 198,513	△ 324,976	△ 56,993	△ 145,495
一般会計からの繰入金	(千円)	決算数値		698,393	637,714	734,031	740,180
		数値目標		600,712	647,934	735,934	735,934
		差 額		97,681	△ 10,220	△ 1,903	4,246
不良債務比率	(%)	決算数値		2.6	11.3	0.0	3.6
		数値目標		△ 21.3	△ 14.3	△ 7.4	△ 1.9
		差 額		23.9	25.6	7.4	5.5

塩竈市立病院改革プランの数値目標を決算数値と比較すると、職員給与費対医療収益比率、入院患者及び外来患者1人1日当り診療単価、救急患者数は目標値を達成したが、その他は目標値を下回っている。

V む す び

市立病院事業会計決算の概要は以上のとおりである。

本年度の患者数を前年度と比較すると、入院患者数は318人(0.6%)増の51,005人、外来患者数は1,916人(3.1%)減の60,121人となった。また、病床利用率は前年度の86.3%から0.3ポイント増の86.6%となっている。

収益的収支を前年度と比較すると、総収入で251,392,205円(8.8%)増の3,102,400,936円、総支出では119,816,637円(4.2%)増の2,960,368,766円で収支差引142,032,170円の純利益で決算され、前年度より純利益で131,575,568円(1,258.3%)増となっている。

総収入の増の内訳は、医業外収益の他会計負担金5,055,084円(3.9%)などで減となったが、医業収益の外来収益108,799,566円(16.8%)や入院収益63,577,180円(4.4%)、医業外収益の他会計補助金81,853,486円(137.0%)などで増になったことによるものである。

総支出の増の内訳は、特別損失の過年度修正損61,788,897円(99.4%)、医業費用の賃借料10,808,740円(21.2%)などで減となったが、医業費用の材料費102,593,406円(24.5%)、給与費で58,833,090円(3.3%)、減価償却費で47,663,055円(79.1%)などが増になったことによるものである。

資本的収支を前年度と比較すると、総収入では424,951,079円(80.1%)減の105,494,327円、総支出では339,703,388円(51.2%)減の324,070,091円となっており、収支差引の不足額218,575,764円は当年度分損益勘定留保資金などで補てんし決算されている。総収入減の主な内訳は、企業債、県補助金などによるものであり、総支出減の主な内訳は、建設改良費によるものである。

本年度は、費用の材料費や給与費などで増となったが、収益で診療単価が上がったことなどによる医業収益の増や他会計補助金の増などにより、黒字で決算されている。

本年度が平成21年度からの計画である「塩竈市立病院改革プラン」の最終年度となっている。改革プランの数値目標について、本年度は職員給与費対医業収益比率、入院及び外来患者1人1日当りの診療単価、救急患者数の項目で達成できている。計画期間中には、経常収支比率、医業収支比率の項目は達成できなかったが、病院と市が一体となり努力したことにより、病床利用率、外来患者1人1日当たりの診療単価など一時的に達成できた項目もあり、また、救急患者数、入院患者1人1日当りの診療単価の項目は、全期間で達成できている。このことをふまえ、今後の病院事業の指針とすべき計画を早期に策定し、目標の達成に向けた更なる努力を期待したい。